

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

多様な選択ができる教育課程、仲間とともに学ぶ主体的で充実した高校生活を通して、自らの「夢」にチャレンジする生徒を育て、希望する進路を実現するための確かな学力が身につく、「進学重視の総合学科」をめざす。

1. 主体的な進路選択を支えるガイダンスの充実と、夢チャレンジを具体化する教育活動の展開

2. とともに学び、ともに育つ学校生活の充実

3. 主体的・対話的で深い学びの実現と、確かな学力の育成

めざす生徒像

1. 21世紀をになう人

2. 知・徳・体の調和のとれた人

3. チャレンジ精神や主体的な行動力をもち、時代の変化に対応できる人

4. 堺東高校から地域社会、そして世界へとはばたく人

5. 人を思いやり、人のために行動できる豊かな心を持ち、感性・創造性豊かな人

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と授業改善

(1) 授業の充実と授業改善

ア 教員相互の授業公開や研究協議、授業アンケート結果の検証等を通じ、すべての教科・科目等で問題発見・解決能力・論理的思考力を育む探究的な学びの充実に取り組むとともに1人1台端末等ICTを日常的・積極的に活用する授業改善に取り組む。

※ 授業アンケートにおける教材活用満足度をR8年度も90%以上とする。(R3：87%、R4：91%、R5：90%)

※ 生徒の「学校教育自己診断」における「生徒1人1台端末を効果的に活用するなど工夫している」をR8年度も90%以上。(R3：一、R4：84%、R5：93%)

(2) 自分の意見をまとめ、相手に自分の考えを伝える能力の向上

ア 「総合的な探究の時間」の充実を図る。

※ 総合学科アンケートにおける「コミュニケーション能力が身についた」をR8年度には80%とする。(R3：76%、R4：78%、R5：79%)

(3) 基礎学力の定着と自ら学ぶ意欲・姿勢の涵養

ア 授業充実による学力向上を基本に、講習、補習等で「学力生活実態調査」の再点検を行うなど、基礎学力を定着させ、進路実現に向け最後まで頑張り続ける意欲・姿勢を高めさせる。

※ 「学力生活実態調査」(1、2年)におけるGTZの1年B3、2年C1をR8年度には共にB2とする。(R3：[B3、B3]、R4：[B3、C1]、R5：[B2、B3])

イ 夏季休業中の講習の参加や「進路CAFE」等の利用を促進し、自ら学ぶ意欲を高める。

※ 生徒の「学校教育自己診断」における「授業内容が分からない時、理解できるよう行動した」をR8年度に93%以上とする。(R3：94%、R4：93%、R5：92%)

2 安全で安心な学校づくり

(1) 人権教育の推進(生徒一人ひとりがそれぞれの個性を尊重しあう集団づくりを行い、人権課題に主体的に対応できる力を育む)

ア 自立支援コースの充実を図り、「ともに学び、ともに育つ」学校づくりを推進するとともに、府内の高等学校における支援教育力の向上に貢献する。

イ いじめの早期発見・対応、体罰防止など、生徒一人ひとりの人権を尊重する学校づくりを推進する。

(2) 教員の人権意識の高揚

ア 校内人権研修を通じて自らの人権感覚を高め、人権侵害のない学校づくりをめざす。

※ 教員の「学校教育自己診断」における『人権教育の校内研修や学習会は充実している』をR8年度85%以上とする。(R3：60%、R4：75%、R5：85%)

(3) 生徒の規範意識の醸成

ア 生徒指導、人権教育を両輪とした教員からの働きかけに加え、生徒自治会活動などを通じた生徒の取り組みも引き出し、安全安心な学習環境を維持する。

※ 生徒の「学校教育自己診断」における「生活指導上のルールを守っている」をR8年度93%以上とする。(R3：93%、R4：90%、R5：97%)

(4) 通学路の安全確保、防災教育の充実と安全・安心な教育環境の確保

ア 行政とともに学校周囲の歩道整備を計画し、地域の理解・協力も得ながら完成をめざす。

3 夢の実現にチャレンジする積極的な生徒の育成

(1) キャリア教育の充実

ア 「総合的な探究の時間」「志学」等によるキャリア教育の充実、適切な教育課程の編成、多様な人材の活用や連携による魅力ある教育活動の展開を通して、夢や志を持って自己の可能性を広げ、粘り強くチャレンジする姿勢を育むとともに、自らの人生や新しい社会を切り拓く力を育成する。

※ 生徒の「学校教育自己診断」における「将来の進路や、生き方について考える機会がある」を、R8年度も90%以上とする。(R3：90%、R4：90%、R5：95%)

※ 総合学科アンケートにおける『「夢チャレンジ」では、研究や発表など創意工夫ができる機会を持つことができた』をR8年度には80%以上とする。(R3：73%、R4：73%、R5：79%)

イ 保育所、病院、老人介護施設等へのインターンシップの充実を図り、それぞれの職業への理解を深める。

(2) 部活動の充実と学校行事への積極的な参加

ア 「部活動に係る基本方針」に則り、部活動を充実・活性化すると同時に、魅力発信を強化し、入部率の回復、伸長を図る。

※ 部活動入部率をR8年度には75%とする。(R3：71%、R4：64%、R5：65%)

イ 学校行事等の生徒が自主運営する行事の活性化を図り、自己肯定感を高める。

※ 「体育祭」「文化祭」の満足度をR8年度ともに90%以上とする。(R3：[92、86]、R4：[83、88]、R5：[92、93])

※ 総合学科アンケートにおける「自分の考える力や自主性を伸ばすことができた」をR8年度には82%とする(R3：79%、R4：81%、R5：78%)

(3) 生徒の対外活動の活性化と地域連携

ア 部活動や授業において、地域の行事やボランティア活動に積極的に参加する。

4 開かれた学校づくりの推進と情報の発信

(1) ホームページ、連絡網等の充実

ア 学校の情報をタイムリーに保護者・生徒に提供するとともに、地域社会に向けた効果的な広報活動の充実を図る。

※ HP、校長ブログ等の更新を頻繁に行うとともに、連絡網によるタイムリーな情報発信を行い、保護者の「学校教育自己診断」における情報提供満足度をR8年度も85%以上とする。(R3：88%、R4：82%、R5：85%)

(2) 学校説明会の充実

ア 学校説明会、オープンスクール及び、ミニ見学会等の内容を、参加者のニーズに合うようアンケートを取り充実させる。

(3) 緊急時の連絡手段の構築と活用

ア 緊急時等における生徒・保護者・教職員の連絡手段の活用を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【学習指導】（※％は肯定率） ・学習に関して、「全般的にみて授業が難しい」と回答した生徒は 85.3％（１年 91.3％、２年 88.4％、３年 75.4％）（昨年 84.8％）と微増した。 ・授業に関して、「全般的にみて授業の雰囲気はよい」と回答した生徒は 83.1％（１年 87.0％、２年 84.8％、３年 75.4％）（昨年 85.8％）と昨年より微減した。また、「１人１台端末を効果的に活用するなど工夫している」と回答した生徒は 93.5％（１年 94.7％、２年 92.0％、３年 93.7％）（昨年 93.0％）と高位安定している。但し、「子どもは授業がわかりやすく楽しいといっている」と回答した保護者は 57.5％（63.6％）と昨年を下回った。 →今後、生徒の状況を見極めながら、生徒の学習効果を高められるように、教え方の工夫や授業の進度・内容の検討を含めた、授業改善への取組みを続けたい。 ・キャリア教育について、「将来の進路や生き方について考える機会がある」と回答した生徒は 93.9％（１年 93.5％、２年 93.4％、３年 95.4％）（昨年 95.2％）、「将来の進路や職業、キャリアガイダンスについて適切に指導している」と回答した保護者は 88.0％（昨年 90.8％）、教員 83.6％（昨年 84.9％）といずれも昨年よりもわずかに下回った。 ・選択科目について、「選択科目の内容は、全体的にみて期待どおりであった」と回答した３年生は 91.8％（昨年 80.6％）、「本校の選択科目は生徒の興味・関心に応じている」と回答した教員は 87.0％（昨年 77.2％）、保護者は 85.3％（昨年 85.5％）であった。 →引き続き、総合学科として生徒のキャリア教育と支援を充実させ、生徒が自分の進路目標を実現できるための魅力ある学校となるよう工夫に努めたい。 【生徒指導】 ・学校生活に対する意識について、「学校に行くのが楽しい」と回答した生徒は 82.1％（１年 83.3％、２年 76.9％、３年 86.6％）（昨年 79.4％）と全体的には増加した、また「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」と回答した保護者も 80.0％（昨年 79.0％）と微増した。 ・本校の生徒指導に関して、「生徒指導上のルールを守っている」と回答した生徒は 95.6％（１年 96.5％、２年 94.7％、３年 95.3％）（昨年 96.6％）、また、「学校の生活について先生の指導には納得できる」と回答した生徒は 78.3％（１年 85.5％、２年 68.9％、３年 74.3％）（昨年 78.0％）と同水準だった。さらに、「学校の生徒指導の方針に共感できる」と回答した保護者も 83.7％（昨年 83.1％）と同水準だった。 ・本校の人権教育に関して、「生命の大切さや適切な人権感覚、社会のルールを学ぶ機会がある」と回答した生徒は 93.1％（１年 95.4％、２年 92.0％、３年 91.2％）（昨年 91.6％）、「学校は生徒に生命を大切にすることや社会のルールを守る態度を養おうとしている」と回答した保護者は 84.4％（昨年 86.6％）、「本校の人権教育の機会と内容は適切である」と回答した教員は 79.6％（昨年 92.8％）であった。 ・本校のいじめに対する体制・対応に関して、「先生はいじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」と回答した生徒は 89.9％（１年 95.1％、２年 81.3％、３年 82.8％）（昨年 88.7％）、保護者は 83.3％（昨年 79.4％）、「いじめが起きた際の体制が整っており、迅速に対応できる」と回答した教員は 80.7％（昨年 88.8％）であった。 →指導方針等について保護者に丁寧に説明をすることや保護者や地域等の意見を参考に、今後も安全で安心な学校づくりへ取り組んでいきたい。 【学校運営】 ・３年生の総合学科アンケートにおいて、「科目選択で選びたい科目を選択できた」と回答した生徒は、大きくポイントが下がった昨年度（77.7％）に比べ、今年度は 89.6％と取り戻した。また、「学校行事や学校生活においても、総合学科らしさを感じることができた」と回答した生徒は 92.8％（昨年 83.5％）と昨年を大きく上回った。「総合学科を選んでよかった」と回答した生徒は 95.8％（昨年 88.8％）で、満足度は上がっている。 →さらに総合学科の特色や強みを見直し、総合学科の魅力向上に努めていきたい。 ・学校行事について、「文化祭・体育祭などの学校行事は活発である」と回答した保護者は 91.8％（昨年 93.0％）、教員 87.0％（昨年 94.6％）また、生徒について、文化祭に 89.8％（１年 95.0％、２年 88.0％、３年 93.8％）（昨年 92.1％）、体育祭に 91.7％（１年 92.7％、２年 89.8％、３年 92.8％）（昨年 92.1％）と肯定的な評価を得た。 →生徒会部を中心に、生徒の主体的な活動を一層推進していけるよう学校行事の充実を図っていきたい。 ・教育相談について、「担任の先生以外にも相談できる先生がいる」と回答した生徒は 57.5％（１年 53.8％、２年 48.0％、３年 73.2％）（昨年 59. 3％）、「学校は子どもの悩みや相談に適切に応じてくれる」と回答した保護者は 78.1％（昨年 78.6％）、「生徒は担任以外の教職員にも相談することができる」と回答した教員は 84.3％（昨年 90.7％）であった。 →担任が面談等を繰り返し、親身に生徒の相談にのっているが、生徒が気軽に相談できる体制の構築に向けて、教員全体が意識をもって今後も取り組んでいきたい。 ・「職員会議をはじめ各種会議が、教職員間意思疎通や意見交換の場として有効に機能している」と回答した教員は 33.3％（昨年 53.7％）、「各仕事の引継ぎがスムーズに行われ継続性がある」と回答した教員は 49.1％（昨年 61.1％）、「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」と回答した教員は 63.5％（昨年 79.2％）といずれも昨年を大きく下回った。 ・地域連携について、「近隣の学校などと異校種間連携の機会を設け、本校の教育活動に生かしている」と回答した教員は 62.8％（昨年 70.4％）と減少した。一方、「PTA 活動に参加している」と回答した教員は 50.0％（昨年 46.3％）と微増した。 →昨年度、分掌や委員会の再編整備を行うにあたり、業務の引継ぎは大変重要である。教職員間のコミュニケーションを密に図り、スムーズな業務の引継ぎ、および組織の円滑な運営が行われるようにすることが必要である。また PTA 活動をはじめとした地域連携を積極的に参加できるよう職場の環境づくりに努めたい。 【情報提供】 ・学校からの情報提供について、「学校は進路や入試等の情報について知らせてくれる」と回答した生徒は 94.5％（１年 93.5％、２年 93.8％、３年 96.9％）（昨年 96.6％）、「学校は教育情報について提供の努力をしている」と回答した保護者は 84. 9％（昨年 85.0％）、「教育活動に必要な情報について生徒・保護者や地域への周知に努めている」と回答した教員は 78.4％（昨年 90.8％）といずれも昨年を下回った。 ・家庭への連絡や意思疎通について、「全般的に学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている」と回答した保護者は 74.5％（昨年 75.9％）、教員は 86.6％（昨年 94.4％）であった。 ・地震や台風等緊急時の対応について、「地震や台風等緊急時のマニュアルは適切である」と回答した保護者は 85.9％（昨年 88.0％）と昨年を下回った。	令和6年度 第1回学校運営協議会 7月22日（月） ＜ご質問・ご意見＞ ・マルチメディアルーム新設に関して、どのような授業が行われますか。→「マルチメディア実習」「コンピュータデザイン」の授業で、動画、CM 作成といった実習を行います。情報科の科目を選択した生徒に対する授業となります。入学するにあたって、こういった情報科の授業を選びたい、といった生徒を増やすことが大切かと思っています。 ・人気のある高校は、日常的に使うもの（トイレ・食堂・制服）といった環境設備に定評があります。こういった設備の充実が必要であるように思います。 ＜ご質問・ご意見＞ ・遅刻が増えているということですが、疾病やそれに近い理由で遅刻してしまう生徒はいますか。 →疾病・心理的要因を理由にした遅刻は増加しているように思います。遅刻について一律に厳しく指導する、ということが難しくなっています。また、遅刻にたいしての保護者の考え方も変わってきているように感じます。遅刻は本当にいけないことなのか、といった足元から 考えなくてはいけない状況だと認識しています。 →遅刻について、生徒個々に応じた対応が必要だと思います。本校では生徒支援委員会でケース会議を行って対応しています。 ・自立支援コース生が部活動やクラス活動で大変頑張っています。堺東高校に通わせる保護者としてたいへん嬉しく思っています。ありがとうございます。 第2回学校運営協議会 11月13日（水） （1） 開会 校長より ・令和6年度上期報告 校長 「夢の定義について」目標（登りたい山）と夢（登った時に見える景色） ex）保育士になる→両親の笑顔が見たい 情報系の会社に勤めたい→母親を楽にしたい ＜ご質問・ご意見＞夢と目標についての認識 そういうことが実現できる学校づくりが大切 生徒の良さ、雰囲気が良い ※地域からの声 保護者の送迎がひどい 特に雨の日 苦情が多くある →地域からも愛される学校であるべき ＜ご質問・ご意見＞ 夢と目標についての認識 授業での成果 成長は嬉しい 堺東高校の魅力素晴らしい→その魅力の発信を お願いしたい。 第3回学校運営協議会 令和7年1月23日（木） 〈質疑応答・情報共有〉 不登校生徒の増加は勤務する中学校でも課題となっている。子ども同士が協力して課題に取り組むことが不登校対策の一助となっている。自分の意見を言う活動や主体的に活動するプログラムを取り入れることが効果があるように感じている。入試改革については、中学校にとって、試験日の前倒しによって、入試が終わった生徒にどう対応するか、でこれから頭を悩ませることになると予想している。また、学校に行きたくないことを認める、オンラインで授業に参加させるといった、これまではなかったことが、これからの普通に起きると考えている。 ・夢チャレンジの授業で、スライドを作成し、子どもが沢山の人の向けて発表できたことにとっても感動した。 ・堺東高校は、地震が起きたときに開放する施設となっている。いざ、災害が起きたときに、校内に生徒がいるなかで、避難してくる住民が出た場合に、どのように場所を提供するかなどもこれから考えていくべきだと思う。 □校長 見学会はぜひ検討したい。 ・入試制度の変更があると、変更直後の生徒・中学・高校は大変だと思う。同窓会のメンバーとしては、堺東高校が、統廃合の対象とならず、がんばって対応していただきたいと思う。 ・自立支援コースの定員は3名で変わらないのか。良い取り組みなので増やしてほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成と授業改善	(1) 「主体的、対話的で深い学び」、問題発見・解決能力・論理的思考力の育成、ICT を活用した授業改善	(1) ア・教員相互に資質を高め合う授業公開や研究協議、教材開発、授業アンケート結果の検証等を通じて、すべての教科・科目等で「主体的・対話的で深い学び」のある授業、問題発見・解決能力・論理的思考力を育む探究的な学びの充実に取り組むとともに、1 人 1 台端末等を日常的・積極的に活用する授業改善に取り組む。	(1) ア・授業アンケートの「教材活用」における肯定的評価 90%以上 [90%] ・学校教育自己診断における「1 人 1 台端末を効果的に活用するなど工夫している」の肯定率 90%以上 [93%]	(1) ア・前・後期にそれぞれ 1 週間の授業公開を実施するとともに、全教員参加の研究授業・研究協議を行い、教員相互で研修を行った。授業アンケート「教材活用」肯定率は 90%であった。(○) ・学校教育自己診断「授業の工夫」の肯定率は 94%であった。(○)
	(2) 相手に自分の考えを伝える能力の向上	(2) ア・授業、集会において自分の考えを発表したり、意見を聞いたりする機会を設ける。 イ・SDGs（持続可能な開発目標）の視点も踏まえた「総合的な探究の時間」において、自分の考えを伝え、国際的な視野にたてるグローバル人材の育成をめざす。	(2) ア、イ ・「産業社会と人間・総合的な探究の時間」においてグループ・個人でのプレゼンテーション、クラス・学年での発表会を、各期（前・後期）で開催する。 ・総合学科アンケートの「コミュニケーション能力が身についた」肯定率 80%以上 [79%]	(2) ア、イ ・総合的な探究の時間「夢チャレンジ」、「産業社会と人間」、「特別活動」等を通じ、夢の追求、共生、SDG s 等の学びと取組み、課題研究へと切れめのない学びと成長の過程を経て、自らの意見をプレゼンテーションできる力を育みつつ、キャリア教育を展開している。(○) ・総合学科アンケート「コミュニケーション能力が身についた」の肯定率は 91%であった。(◎)
	(3) 基礎学力の定着と自ら学ぶ意欲・姿勢の涵養	(3) ア・授業充実による学力向上を基本に、講習、補習等で「学力生活実態調査」の再点検を行うなど、基礎学力を定着させ、進路実現に向け最後まで頑張り続ける意欲・姿勢を高めさせる イ・キャリア教育「夢チャレンジ」や教科指導等のあらゆる教育活動を通じて、学習に向かう態度を育むとともに、夏季休業中の講習等に自ら参加する姿勢を育てる。	(3) ア・「ガシドリ」の実施等による基礎学力の定着を図り、「学力生活実態調査」1,2 年における GTZ を（B 2、B 2）にする。[B 2, B 3] イ・学校教育自己診断の「授業は理解できた」肯定率 78%を維持 [78%] ・学校教育自己診断の「授業内容が分からない時、理解できるよう行動した」肯定率 92%を維持 [92%]	(3) ア・日常の課題に加え、夏休み前の「ガシドリ」の実施により、基礎学力の底上げ・定着を図った。今年度第 2 回の「学力生活実態調査」における 1,2 年 GTZ は一昨年の（B 2、B 3）を受け（B 2、B 2）を目標したが、（B 3、B 3）にとどまった。(△) イ・学校教育自己診断（生徒）における「授業は理解できた」の肯定率が、79%であり、維持できている (○) ・学校教育自己診断の「授業内容が分からない時、理解できるよう行動した」肯定率 92%を維持(○)
2 安全で安心な学校づくり	(1) 人権教育の推進 ア 「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進	(1) ア・「自立支援コース」生徒の授業交流の機会を保障するとともに支援学校との交流の継続実施 ・障がい者理解、SNS などの人権学習をはじめ、あらゆる教育活動において人権・多様性を尊重する教育を推進し、自他の違いを認め権利を尊重し、人権課題に主体的に対応できる力を育む。	(1) ア・「自立支援コース」生徒の交流授業を 6 教科で実施し、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。[6 教科] ・支援学校との交流を 2 回実施 [2 回] ・「学校教育自己診断」（保護者）における「人権感覚を身につけている」肯定率 90%以上 [94%]	(1) ア・理科・社会・保健体育・芸術・家庭・情報の 6 教科の授業で「自立支援コース」生徒が原学級でともに学ぶとともに、総合的な探究の時間、HR 活動、学校行事等でともに学ぶ機会を創出している。(○) ・7 月および 12 月に堺支援学校高等部 3 年生との交流会を実施した。(○) ・「学校教育自己診断」（保護者）における「子どもは適切な人権感覚を身につけている」の肯定率は 93% (○)
	イ いじめ防止	イ・いじめはどこにでも起こりうることを認識し、教職員一人ひとりが敏感で寄り添う指導ができるよう資質の向上に努めるとともに、「いじめ防止基本方針」に則り組織的に取り組む。	イ・学校教育自己診断における「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率 85%以上を維持 [89%]	イ・アンケートの実施や生徒への聞き取り等、組織的な対応を行い、学校教育自己診断「いじめ対応」の肯定率は 90%であった。いじめ防止基本方針により年間計画通り委員会を開催し、情報共有を行っている。(○)
	ウ 仲間づくり	ウ・HR 活動等における仲間づくりや、授業・行事で生徒が協同して取り組む活動を積極的に行うとともに、教職員・生徒ともに挨拶を励行する。	ウ・学校教育自己診断の「学校へ行くのが楽しい」肯定率 77%以上 [79%]	ウ・生徒主体の学校行事の実施など、充実した学校生活を送ることができるよう取り組み、「学校へ行くのが楽しい」肯定率は 92%であった。(◎)
	エ 自立支援コースの成果の府内	エ・高等学校支援教育力充実事業支援教育サポート校として、府内の高等学校における「と	エ・要請を可能な限り承諾し、府内高等学校の支援教育	エ・高等学校支援教育力充実事業支援教育サポート校として、相談要請への対応、支援教育コーディネーター連絡会 3 回、

府立堺東高等学校

に チ ャ レ ン ジ す る 積 極 的 な 生 徒 の 育 成	イ 生徒による学 校行事等の自主 運営 (3) ア 学外活動への 積極的な参加と 地域連携	イ・体育祭生徒準備委員会を発足させ、実施競 技や応援方法等の再検討を行うなど、「体育 祭」「文化祭」「クラスマッチ」、「修学旅行」 等の生徒が自主運営する行事の活性化を図 り、生徒の主体的な活動を支えることで、 自主性の伸長を図る。 (3) ア・地域小学校との交流の継続 イ・地域のイベントやボランティア活動への参 加	させる [65%] イ・「体育祭」「文化祭」の満 足度をともに 90%以上[体 育祭 92%、文化祭 93%] ・総合学科アンケート「自 主性を伸ばすことが出来 た」80%以上 [78%] (3) ア・地域小学校との授業交流を 1 回以上実施する [2 回] イ・地域のボランティア活動を 昨年度と同程度の回数実 施する [120 名]	ど入部率回復に努力した結果、全学年で は 66%であった (△) 引き続き部活動の魅力発信を強化して、 入部率の回復に努める。 ・体育祭、文化祭ともにコロナ関連の制限 をなくし、生徒が主体的に企画・運営す るよう準備した結果、体育祭、文化祭の 満足度は 92%、92%であった。(○) ・「自主性を伸ばすことが出来た」(総合学 科アンケート) 肯定率は 90%で目標を大 きく達成した。(◎) 生徒の主体的な活動 を支えることで、自主性の伸長を図りた い。 (3) ア・福祉系選択科目で実施している障がい者 の介助について、地域の小学校の総合的 な学習の時間に合わせて交流を行い、高 校生が小学生に教える取組みを 2 回継続 している。(○) イ・ボランティア部による地域でのボランティ ア活動や運動部員等による地域イベント への参加をはじめ、教職員も地域活動に参 画し、継続的な交流を行っている。 ・地域のボランティア活動 120 名 (○)
4 開 か れ た 学 校 づ く り の 推 進 と 情 報 の 発 信	(1) ア ホームページ、 連絡網等の活用 (2) ア 学校説明会で の情報発信	(1) ア・ホームページ、連絡網等を活用し学校の情 報をタイムリーに保護者・生徒に提供して ニーズに応えるとともに、地域社会に向け た効果的な広報活動の充実を図る。 (2) ア・参加者のニーズをとらえた学校説明会、ミ ニ見学会を開催するとともに中学校等から 依頼のある説明会に積極的に参加	(1) ア・ホームページ、ブログ等の 更新、連絡網によるタイム リーな情報発信により、学 校教育自己診断 (保護者) における「教育情報につい て、提供の努力をしてい る」肯定率 85%以上 [85%] (2) ア・生徒・保護者のニーズを把 握するため、学校説明会等 において、「説明のわかり やすさ」「学校に対する興 味」などのアンケートを毎 回実施する。	(1) ア・クラウドサービスおよび学年ブログを活 用し生徒・保護者への確実で迅速な連絡 を行っている。学校の特色と魅力発信の ため、学校説明会は合同 5 回、単独は 7 回を実施。 教育庁指定の「生徒が主導する SNS モデ ル校に認定され公式インスタグラムを開 始情報を提供した。 保護者の学校教育自己診断における「教 育情報について、提供の努力をしてい る」肯定率 85% (○) (2) ア・体育祭、文化祭、日常の学校生活等それ ぞれの様子を紹介するコンテンツ(スライ ドショー等)を作成し、生徒の協力も得て、 学校の様子がより良く伝わるよう魅力発 信している。(○) 10 月オープンスクールのアンケートを毎 回実施、募集戦略に生かしている。」